

対ベリーズ国別開発協力方針

平成 28 年 9 月

1. 当該国・地域への開発協力のねらい

(1) カリコム（カリブ共同体¹）への開発協力のねらい

ベリーズを含むカリコム加盟諸国が位置するカリブ海地域には島嶼国が多く、ハリケーンや地震、津波などの自然災害が頻発する地域である点や、海洋生物資源の持続的利用の推進などの点で、我が国との共通性を有している。同地域の国々はいずれも、気候変動や自然災害に対する脆弱性を抱えていることに加え、人口・経済規模が小さく、農業、水産業、観光業など外的要因に影響されやすい産業を経済の基盤としている。こうしたカリブ海地域共通の課題克服のために、自然災害を克服してきた日本の経験・知見を共有し、我が国が側面支援を行うことは、各国の社会経済的安定及び地域全体の持続可能な成長の観点から重要である。

(2) ベリーズへの開発協力のねらい

ベリーズは中米地域に位置するカリコム加盟国としての地位を占めつつ、SICA（中米統合機構）にも属し多層的な外交を展開しており、これらの地域・多国間組織との連携の観点からもベリーズとの関係は重要である。ベリーズでは中所得国として経済成長しているものの、他のカリブ諸国同様に外的要因の影響を受けやすく、また、2008 年の世界的な景気低迷から回復しつつあるも、その後も低成長や高い失業率、貧富の格差、治安等の社会問題を抱えている。ベリーズは民主主義や法の支配等の基本的価値を我が国と共有しており、これまでも国際場裡において我が国の立場を理解・支持している。ベリーズの課題克服のために我が国の経験・知見を生かした支援を行うことは、二国間の更なる発展と今後の経済・人的交流の基盤につながる。

2. 我が国のODAの基本方針（大目標）：脆弱性の克服（カリコム加盟諸国共通）

開発協力大綱において、一人当たり所得が一定の水準にあっても小島嶼国等の特別な脆弱性を抱える国々等に対しては、各国の開発ニーズの実態や負担能力に応じて必要な協力を行っていくこととしている。カリコム加盟諸国に対しては、2014 年 11 月に開催された第 4 回日・カリコム外相会合において採択された日・カリコム共同閣僚声明に基づき、第一の柱「小島嶼開発途上国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力」のため、日本の技術や知見を活かした協力を展開する。

¹ カリコム（カリブ共同体）は、カリブ海諸国の経済統合、外交政策の調整、保健医療・教育等の協力促進を目的として1973年、CARIFTA(カリブ自由貿易連盟)を発展的に解消させて結成した。事務局はガイアナのジョージタウンにある。加盟国・地域は14 各国・1 地域である。

3. 重点分野（中目標）

（1）防災・環境

ベリーズは、ハリケーンや洪水等の被害を受けやすく、気候変動対策も含め自然災害に対する脆弱性克服が重要な課題であり、適応及び緩和両面での対策推進を図る。また、都市環境の持続可能な開発に向けて廃棄物管理及びリサイクルシステムの構築等を中心とした人材育成支援等を実施する。

（2）格差是正

安定した経済成長を達成できず、所得格差の拡大、失業率及び貧困率の上昇への対策が喫緊の課題となっている。それらの是正を目的とし、開発が遅れる地方における経済・社会開発、特に教育、コミュニティ開発を支援することで、人材育成及び雇用機会の拡充を図っていく。またその際、女性にも平等に機会が提供されるよう留意する。

4. 留意事項

ハリケーンや熱帯暴風がベリーズでは頻発し、多大な被害をもたらしていることから、インフラ整備を含めた防災対策に対するニーズが特に高いことに留意する。

（了）

別紙： 事業展開計画